

Q1
マイブームは
何ですか？

Q2
休日の
過ごし方や趣味を
教えてください。

Q3
目標は
何ですか？

SUMITOMO ELECTRIC

INFORMATION GUIDE

1

2

3



前田 敦彦

休日は会社に入ってから始めたテニスをしています。
最近では子供との差がどんどんなくなってきており親としての威厳を保つのが精一杯です。

2年前からスペイン語の勉強をしています。専らバルでのコミュニケーションが主ですが、めげずに努力し、いつかはスペイン語で会話できるようになりたいです。



世の中の変化に伴い、私たちが先輩から受け継いだ良い部分を最新技術と融合することで、未来に向けたよりよい仕組み作りを手伝っていきたく思います。



南部 順也

休日は趣味のバスケットボールをして日々の疲れをリフレッシュ。
バスケの予定がないときは自宅で映画などを見てのんびりと過ごします。

体を動かすことが好きなので、ランニングやボルダリングをしています。地域のマラソン大会に出場することも考えています。

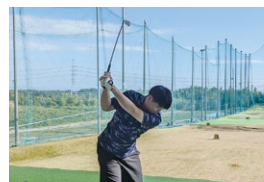


ソフトウェアとハードウェアの両方の知識を身に付け、突発的に発生するトラブルにも迅速に対応できるようになることです。



小川 曜史

マイブームはゴルフです。仕事終わりに打ちっぱなしに行き、休日は会社の仲間とコースを周り、リフレッシュしています。



休日は、旅行など遠くに出かけることが多いです。また、暇な時間ができたらジムに行き、運動することも心がけています。

今後のワイヤーハーネス開発のリーダーとして自動車の進化に貢献し、国内外問わず活躍できる人材になることです。

住友電工 × 高専



住友電気工業株式会社

お問い合わせ先

【大阪本社】 〒541-0041 大阪市中央区北浜4-5-33 (住友ビル)
人事部 人材採用部 採用企画グループ
TEL: 06-6220-4134 / E-mail: go@info.sei.co.jp
URL: <https://sumitomoelectric.com/jp/>

【東京本社】 〒107-8468 東京都港区元赤坂1-3-13
人事部 人材採用部 東京人事・採用グループ
TEL: 03-6406-2610 / E-mail: go@info.sei.co.jp

特集

住友電工での
高専出身社員の働き方

住友電工の特徴 事業や技術

社会のいろんな
ところに住友電工。
多様な事業分野で
高い技術力。

住友電工は銅電線の製造技術を基に、電力用ケーブルや通信用ケーブル、自動車用ワイヤーハーネス、電子線照射電線・チューブなど幅広い新製品を開発。一方、導体の伸線技術を活用して特殊金属線や超硬合金工具、焼結部品などを作りだしました。また、化合物半導体、フレキシブルプリント回路、ハイブリッド製品、システム製品などの分野にも領域を広げ、現在、「自動車」「情報通信」「エレクトロニクス」「環境エネルギー」「産業素材」という5つの事業分野も確立しています。今後もこれらの技術をベースに、新しい事業領域に展開・挑戦し、よりよい社会の実現に貢献していきます。

住友電工 — 5つの 事業



**環境
エネルギー**
ENVIRONMENT &
ENERGY

ヨーロッパでは大型国際連系線プロジェクトが立ち上がり、新興国においては電力インフラの需要が伸びています。再生可能エネルギーの導入が増え、電気自動車も普及する中、環境エネルギーに関わる住友電工グループの豊富な経験と技術が必要とされています。日本国内トップの事業基盤、実績を、世界へ。グローバルなプレゼンス向上を目指します。



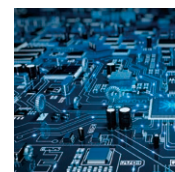
情報通信
INFO-
COMMUNICATIONS

映像配信やAI・IoT関連需要などを支えるクラウドサービスの拡大や、ネットワーク高速化の鍵となる第5世代移動通信システム(5G)時代の到来により、データトラフィック量は格段に増加していきます。住友電工グループは、強みとする光ファイバ製造技術、伝送デバイス、化合物半導体、アクセス機器技術などで、大容量高速通信を実現し、高度情報化社会を支えています。



自動車
AUTOMOTIVE

世界の自動車販売台数は増加しており、環境規制の強化による環境対応車も増えています。CASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)の加速的進展、異業種の参入など、自動車業界が大きな変革期を迎えている今、私たち住友電工もグループ内リソースを結集し、モビリティの進化に貢献していきます。



**エレクトロ
ニクス**
ELECTRONICS

モバイル端末の伝送情報量の飛躍的な増加により、新たな機能や規格の開発が加速しています。また、電気自動車や自動運転の実現に向けてカーエレクトロニクス製品や航空機器向けのニーズも増えています。成長市場を支えると共に、高機能配線と高機能部材のグローバルトップサプライヤーを目指します。



産業素材
INDUSTRIAL
MATERIALS

自動車や航空機製造に欠かせない機械加工用の超硬工具市場において、高い加工性・耐久性を持った製品をグローバルに展開し、さらにセンシング技術とビッグデータ活用でさらなる競争力向上を図っています。世界トップレベルの材料技術を活かし、高性能・高機能製品のグローバルサプライヤーとして取り組んでいます。

高専出身社員にとっての 住友電工の魅力

住友電工の高い技術力を支えるのは人。高専出身社員もたくさん活躍しています。

多様な事業があり、技術力にこだわりが強い住友電工にはたくさんの技術者がいて、高専出身の先輩も活躍中。高専出身社員にとっての住友電工の魅力をまとめてみました。

POINT1 高専出身社員が活躍できる

当社では、理系総合職として高専、大学、大学院(修士、博士)を卒業した学生を採用しています。それぞれの適性や専門性、本人の希望を考慮して配属先を決め、学歴により職種や仕事内容を区別せず、各部門のニーズに合わせて適材適所に配属します。処遇や昇進の違いも卒業時の年齢差だけです。部門業績や本人の評価による多少の違いはありますが、基本的には高専卒で入社後2年経つと大学卒業で入社した社員と同じ処遇、職位になる仕組みです。高専卒業生がとてつもない評価され、活躍できる会社です。

POINT2 大企業だからこそチャレンジできる

住友電工は世界40か国以上に海外拠点があり、グローバル従業員28万人以上、連結売上が4兆円を超す大企業。事業領域が自動車、情報通信、エレクトロニクス、電力、インフラなど非常に多岐にわたっており、多少景気変動しても安定しているということも強みです。大企業で安定しているからこそ、失敗を許容できる会社基盤が整っており、すぐに成果が出なくても長期的視点で見守る懐の深さがあります。若い頃から仕事を任せられ、大きなことにチャレンジできる会社です。

POINT3 人として、技術者として、成長できる

住友グループには400年以上の歴史があり、その企業理念は住友事業精神として企業経営の基盤になっています。その事業精神は、「一人の人間として何事に対しても誠心誠意を尽くす人であれ」とされ、お客様を大切に、常にお客様の信頼に応え、何よりも信用を重んじています。一人ひとりが安易な利益追求に走ることなく、人間を磨き、人格豊かに成熟することが求められています。さらに技術を創造し、変革を生み出し、絶えざる成長に努め、よりよい社会、環境づくりへの貢献を目指しています。このような当社の経営理念の元で、人として、技術者として成長できる会社です。

POINT4 ワークライフバランスに優れている

家賃補助、カフェテリアプラン、スポーツ活動奨励、ジョブリターン(退職後再雇用制度)などの充実した福利厚生制度があります。働き方改革の推進により平均所定外労働時間は月20時間以下、平均有休取得率も8割以上で、在宅勤務やフレックスタイム、時間単位有休など柔軟な働き方が可能となりました。さらに、子育てサポート企業として、厚生労働省よりプラチナくるみの認定も受けており、仕事と生活を充実させた働き方ができます。



POINT5 ダイバーシティ推進

グローバル競争に勝ち抜いていくためには、多様な人材が持てる能力を最大限に発揮できる環境づくりが重要です。住友電工グループでは、性別、年齢、国籍などにかかわらず多様な人材が適材適所で活躍し、仕事を通じて成長し、社会に貢献することを目指しています。とりわけ、女性がその力を存分に発揮し活躍することは、全ての社員が一層活躍できる土壌の形成にもつながり、将来的な成長発展に結びつきます。当社は女性の採用と登用に積極的に取り組んだ結果、女性活躍推進に優れた上場企業として経済産業省ならびに東京証券取引所より2022年度「なでしこ銘柄」として認定されています。性別、国籍、年齢にかかわらず、多様な社員が活躍できる会社です。





住友電工×高専

住友電工ハードメタル
株式会社

前田 敦彦

ATSUHIKO MAETA

入社年：1993年

専攻：高専 機械工学科

入社後のキャリア

1993～2017年

製品開発部(現デザイン開発部)に配属され、
刃先交換式転削工具の開発に従事。

2017～2022年

Sumitomo Electric Hartmetall GmbH
(欧州販売会社)に異動し、欧州市場への
技術サポートを統括。

2022～

現在のデザイン開発部インサート工具開発
グループに戻り、旋削、穴あけ工具を含め刃先
交換式工具の開発を統括、2023年6月より
デザイン開発部 部長を兼任。

私の高専時代

全体を通じて振り返ると、実験や工場実習が好きで熱心に取り組んだ思い出があります。道具や装置を壊して教官に叱られたこともありましたが、自分で手を動かし、設備や実験器具を使い、現象を確認し、出てきた結果を元に「なぜか？」を考察する、この一連のサイクルが好きだったのかもしれないし、現在の

業務にも生きているように思います。

また部活動は陸上部に所属していました。高専は県大会がなく、地区大会(私の場合は中国大会)の後全国大会になるのですが、先輩や後輩と日々努力をし、各地様々な都市に行ったのも非常に良い思い出です。

住友電工に入社した理由、若手時代

卒業研究では、ロウ付けの転削工具で難削材加工をしていました。その中で何となく切削加工という現象が好きになり教授に相談したところ、住友電工を知り、入社試験を受けました。その後、粉末合金事業部(現:住友電工ハードメタル株式会社)に配属となったのが今の原点です。入社1年目から製品開発を任せられ右往左往したり、

4年目でアメリカ企業との技術提携の調印式に技術担当として当時の事業部長と二人で派遣されるなど、若い時からかなりチャレンジングな経験をしました。今思えば、早い時期に欧州、アジアなど多くの海外に行くことができ、見聞を広めるとともにやりがいを感じる事ができた経験が大きなプラスになったと感じています。

現在の仕事内容とやりがい

私の仕事は切削工具という製品を新しく生み出すことにあります。特に長年取り組んでいる転削工具という製品は、競合他社に比べ競争力がなく、当社の弱点でした。当初は他社の製品を徹底的に調べ、生産技術部、工場の方々とデータを元に製造方法を推定したり、新規の製造技術を開発したりと、かなり多岐にわたる検討を行いました。製品が完成した後は、日本国内は元より海外の販売会社、特約店への教育、技術サポートなどを行うのですが、始めはなかなか相手にしてくれなかった特約店が、顧客への度重なる訪問や手厚いサポートで認めてくれたり、難しい顧客要求を共に達成できた経験が心の糧になっています。苦楽を共にしたパートナーが各地区にいてくれるのも頼もしいですね。



印象に残っている仕事

やはり入社して初めて開発した製品が非常に印象に残っています。当時は転削工具用インサートの切れ刃形状を湾曲させることで切味を上げるというのが一つのトレンドでしたが、当社はそのトレンドに乗り遅れ、製品を出せずにいました。

私が入社2年目の時、先輩の後を引き継ぐ形で開発担当になったのですが、当時は設計をするための三次元CADのライセンス数が少なく、消しゴムを切りながら切れ刃形状の試行錯誤を行いました。やっとできた図面を元に金型を作製するのですが、金型も思い通りにできず、何度も金型工場に通い、電極の材質や精度、作り方などを工場の方と協議しながら進めました。

また次工程ではその金型を使って超硬を押し固めるプレス作業を行うのですが、当時はメカプレス(手動)でしたので、理想の形状に近づけるためにプレス

体を見ながらミリ単位で何度も条件を調整し、試作をしたことを思い出します。

時には金型をぶつけて破損が起き、金型工場に慌てて修正を依頼するなど、工場の方々と夜遅くまでプレス機の前で奮闘しました。

これらの苦労の結果、1996年に製品として発売を開始するのですが、日本市場は元より欧州、米州の市場でも爆発的に売れ、一時は生産が追いつかないほどの売れ行きになりました。

この製品のおかげで海外にも数多く出張する機会を得たのですが、ある時、スペインのお客様の技術サポートをした際に「あなたがこの工具を作ったのか！この工具のおかげで加工がしやすくなった！！ありがとう。」と言われたのが強く印象に残っており、今でもこの思い出が私の仕事の原動力になっています。

住友電工のいいところ



年齢に関係なく、様々なチャレンジをさせてくれることが住友電工のいいところだと感じます。勿論、時にはそれにより高額な費用を発生させたり、大勢の人を巻き込むことになるためプレッシャーや責任も大きいです。しかし、自分で考えてチャレンジしたことが成功した際の達成感は言葉では言い表せませんし、なんでも挑戦させてくれる風土は他社にはない魅力だと思います。

メッセージ

高専生の方から、「会社に入って一人でやっていけるか」、「大学院生などと同じ成果は出せるか不安だ」などとよく相談を受けますが、高専生の強みは何だと思いますか？ 私は、
①大学生、大学院生の皆さんより若くして社会に挑戦できること
②彼らよりもより実習、実験などの実体験に基づいた専門知識、スキルがあること
だと思います。先のことを憂うのではなく、まずは毎日の授業や実験から興味のあることを見つけることから始め、それらを繰り返すことで関心を深めること、さらにそれらを進め、最終的には自分の強みを一つでも多く作ってください。勿論、社会に出てからでも強みは作れますのでご心配なく。



02

INTERVIEW



住友電工×専攻科

架空線事業部
インベティブ・ソリューション部

南部 順也
JUNYA NAMBU

入社年：2018年
専攻：高専 電気情報工学科
専攻科 メカトロニクス工学

// 私の高専生時代

私は工業高校の機械・電気科で機械・電気の基礎を学んだ後、高専の電気情報工学科に編入しました。高専では数学の授業が工業高校で学んだ範囲より進んでいたため、編入当初は特に数学に苦労しました。そこで先生に相談したり、毎日30分の数学の勉強を日課にすることで、最後には数学が一番得意の科目となりました。その後、高専専攻科ではメカトロニクス工学を専攻しました。機械・電気・情報と学べたことでいろいろな視点から物事を見ることができ、現在の業務に活かされていると感じています。高専では実習が多く、私は机に座っての勉強よりも実際に手を動かす方が性に合っていたので、高専は自分にすごく合っていたと思います。

// 住友電工に入社した理由

私はモノづくりを通じて社会に貢献し、グローバルに活躍できる技術者として成長したいと考えていました。高専への求人票から住友電工という会社を知る中で、エレクトロニクスや自動車などの様々な事業に力を入れていることや、スマートフォンや自動車などの身近なものに当社の製品が使用されていること、多くの人の生活を支えていることに魅力を感じました。また、住友電工の製品の中には、世界トップシェアを誇るものもあり、世界と戦うことができる技術力にも興味がありました。高専生活で学んだ知識を活かし、技術を身に付けて、電力インフラに携わって社会に貢献したいと考えたのが入社へのきっかけです。

// 現在の仕事内容とやりがい

私は電力会社の送電鉄塔に取り付けるシステム製品の設計や製造の指示、出荷検査などの仕事をしています。顧客や製品を製造する外注先、鉄塔に装置を取り付ける施工業者とやり取りをする中で、どのように指示をすれば相手分かりやすいかといったことや、どのような資料を作れば相手に伝えたいことが伝わるかなどを考えながら業務を行い、成長できることにやりがいを感じています。自身の専攻分野と異なるシステム関係についても学べることにやりがいを感じています。



// 印象に残っている仕事

送電設備監視のために送電鉄塔にいろいろなセンサや機器を設置する必要があり、その施工指導のために出張で現場に行くことがあります。この前の出張では送電線鉄塔に昇って施工指導を行いました。鉄塔に昇るのは、最初は不安だらけでしたが、施工担当者や施工会社の方に指導していただき、昇ることができました。昇った後は、私が指導する番でしたが、実際に昇ったら綺麗な景色が一望できて、とても気持ちいいものでした。出張は長くても1週間くらい。出張先での仕事後に工事会社の方などから地元のおいしいお店を紹介いただき、時には一緒に名物を食べて交流を深めています。

高専生時代にしておいたほうが いいと思うこと

TOEICのスコア550点以上が昇進の一つの目安として設定されているため、学生の間に少しでもスコアが向上するように取り組むといいと思います。私自身、英語には苦手意識がありますが、高専在学中にTOEICの勉強をしていたことで住友電工のTOEIC最低基準点を超えることができました。

03

INTERVIEW



住友電工×大学編入

自動車事業本部
オートネットワーク技術研究所

小川 曜史
YOJI OGAWA

入社年：2021年
専攻：高専 機械工学科
大学院 工学研究科 機械創造工学

// 私の高専生時代

私は自動車に関わる仕事がしたいと思い、高専の機械工学科に入学しました。実際の機械に触れ、モノづくりができる高専の環境は自分に合っていたと思います。ただ、高専生時代は勉強そっこのだけで部活や課外活動などに熱中していたため、学習面では赤点をとり、先生を困らせることもありました。勉強に本気で取り組んだのは、5年生に進級する直前の進路面談で大学に編入すると決断してからです。周りから無謀だと言われた中、恩師から「前例がないなら君が前例になればいい」と言われ背中を押されたことをよく覚えています。この言葉は自分の座右の銘であり、何事にも臆することなく新しいことにどんどんチャレンジする原動力になっています。

// 住友電工に入社した理由

将来は自動車に関わる仕事に就きたいと考えていたので、最初は完成車メーカーしか頭に浮かんでいませんでした。住友電工を知ったのは、先輩が住友電工に就職することを知ってからです。そこで初めて、「住友電工はワイヤーハーネスのシェアが世界トップであり、自動車業界において非常に重要な役割を果たしている」ということを教えてもらいました。また、事業分野が自動車以外にも多岐に渡っており、縁の下で力持ちとして社会を支えていることがとても魅力に感じました。会社への理解が深まっていくにつれて次第に入社を志すようになっていました。

// 現在の仕事内容とやりがい

私の部署は高速通信ハーネスの開発に取り組んでいます。現在、自動車業界は100年に1度の大変革期にあり、ワイヤーハーネスもこの変革に対応して進化することが求められています。私は、自動運転やコネクティッドカーに欠かせない高速通信ハーネスの部品設計や性能評価に携わっています。まだまだ分からないことも多いですが、日々成長しながら、将来の自動車に貢献できていることに仕事のやりがいを感じています。



// 印象に残っている仕事

私は高速通信ハーネスの部品設計や解析・評価に携わっており、これらの業務では、電気や情報通信に関する知識が必要となります。私は学生時代に機械系を専攻しており、設計に関する理解はありましたが、電気や情報分野は無知の状態でした。最初は自分で業務を進めていくことが困難でしたが、上司や先輩方の支援もあり、少しずつ自分で進められるようになりました。先日は、新規部品の開発にあたり、その部品の構造を私が設計するという任務を任せられました。それまでに培ってきた知識・経験を活かし、部品設計から解析による検証まで自分でやり、最終的には最適な構造を見出すことができたことが、自身の成長も実感できてとても嬉しかった経験です。

高専生時代にしておいたほうが いいと思うこと

高専生の皆さんには、多くのモノや機械に触れながらモノづくりの知識や技術をたくさん身に付けてほしいと思います。高専は、モノづくりに関する専門的なスキルを培う機会に恵まれた環境です。そこで得た学び・経験は他の同年代の方々にはない、高専出身者特有の強み・個性となり、仕事のあらゆる場面で活躍できることでしょう。